

6-5 九州地方とその周辺の最近の地震活動（1989年5月～10月）

Recent Seismic Activity in and around Kyushu District (May–October, 1989)

福岡管区気象台

Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA

1989年5月から1989年10月までの震央分布を第1図に示す。また、第2, 3図にはそれぞれ1989年5月～7月, 8月～10月の震央分布を示す。用いたデータの詳細は福岡管区気象台¹⁾を参照されたい。

この期間の主な地震活動は次のとおり。なお、図の外の活動についても、目をひいたものについては参考のため列記。

- (1)* 4月14日から続いていた福岡・大分県境の地震は6月19日までに11個発生した。その後は発生していない。
- (2)* 5月8日11時32分に発生した地震(M:3.3)により阿蘇山で震度Ⅲを観測した。これは、火口付近を震源とする地震で、阿蘇山測候所は、16時15分に臨時火山情報第3号を発表した。
- (3) 5月19日01時36分 大分市の南東約60kmの日向灘北部の地震(M:4.0)により宇和島で震度Ⅱ, 大分で震度Ⅰを観測した。
- (4) 5月20日17時55分 熊本県北西部の地震(M:3.2)により熊本で震度Ⅰを観測した。
- (5)* 7月13日00時07分の地震(M:2.8)により雲仙岳で震度Ⅰ, 00時29分の震度(M:3.2)により雲仙岳で震度Ⅱ, 13日03時16分の地震(M:2.8)により雲仙岳で震度Ⅰを観測した。いずれも橘湾を震源とする地震で雲仙島原地溝帯の南端に発生したものである。
- (6)* 8月4日14時10分 種子島近海で発生した地震(M:5.3)により鹿児島と枕崎で震度Ⅱを観測した。この地震の震源は1987年3月に発生した種子島東方沖群発地震の震源域の少し北に位置するが、M:5以上の規模の地震としては1989年1月の種子島南東沖群発地震以来である。
- (7) 8月23日23時52分 日向灘南部で発生した地震(M:3.9)により油津で震度Ⅰを観測した。
- (8)* 8月23日05時53分 大分県別府市付近で、局地的に有感の地震が発生した。別府市にある京都大学地球物理学研究施設によると、05時51分から06時17分の間に震度Ⅱ相当の地震が5回、震度Ⅰ相当の地震が3回観測された。このうち福岡管区気象台が震源決定した地震は1個(M:2.5)だけである。
- (9) 9月5日20時25分 トカラ列島西方沖(図の外)で発生した震度(M:5.8)により、鹿児島と名瀬で震度Ⅰ, 同日22時03分にもほぼ同じ場所で発生した地震(M:5.7)により名瀬で震度Ⅱを観測した。これらの地震に先立ち、8月31日(M:3.7)と9月2日(M:3.7)に地震が発生している。この付近の海域でM:5.5以上の地震が発生したのは1931年4月19日(M:6.0)以来で、その時は鹿児島で震度Ⅲ, 名瀬で震度Ⅰを観測している。
- (10)* 9月13日17時46分 種子島近海でM:4.4の地震が発生した。この地震をはじめに、17時54分までの8分間に同じ場所が震源と思われる7回の地震を観測した。この付近では過去にいくつかの群発地震が発生しており、1987年3月には今回の地震の北東側で(Mmax:5.1), 1988

年4月には南西側で(Mmax:5.3)の群発地震が起こっている。また、1923年7月13日にはこの付近でM:7.1の地震があり、鹿児島・宮崎で震度Ⅳを観測し、種子島で住家小破等の被害があった。

- (11)* 9月27日18時00分 宮崎県南西部で地震(M:4.2)が発生した。この付近を震央とする浅い地震では、1954年2月24日に震度(M:4.9)が発生し都城で震度Ⅲ、油津、宮崎、阿蘇山で震度Ⅱ、人吉、大分で震度Ⅰを観測した例がある
- (12) 10月1日08時00分 天草地方で発生した地震(M:2.8)により、牛深で震度Ⅰを観測した。
- (13) 10月2日04時24分 日向灘南部の地震(M:5.3)により油津で震度Ⅱ、宮崎と鹿児島で震度Ⅰを観測した。
- (14)* 10月9日19時40分 薩摩半島の地震(M:5.0)により油津で震度Ⅱを観測した。この地震の震源の深さは153kmで、震央に近い鹿児島や枕崎では無感となる異常震域を示した。この現象は東北日本において有名であるが、九州地方においても深さが約100km以上の地震でしばしばみられる。
- (15) 10月15日15時57分 天草灘で発生した地震(M:4.8)により、牛深で震度Ⅱを観測したほか、福岡、福江、熊本、鹿児島、長崎、及び人吉で震度Ⅰを観測するなど、九州西半分の広い範囲で有感となった。この地震の後、余震と思われる地震が発生し、10月末まで7個の地震(Mmax:3.4)について震源を決定した。

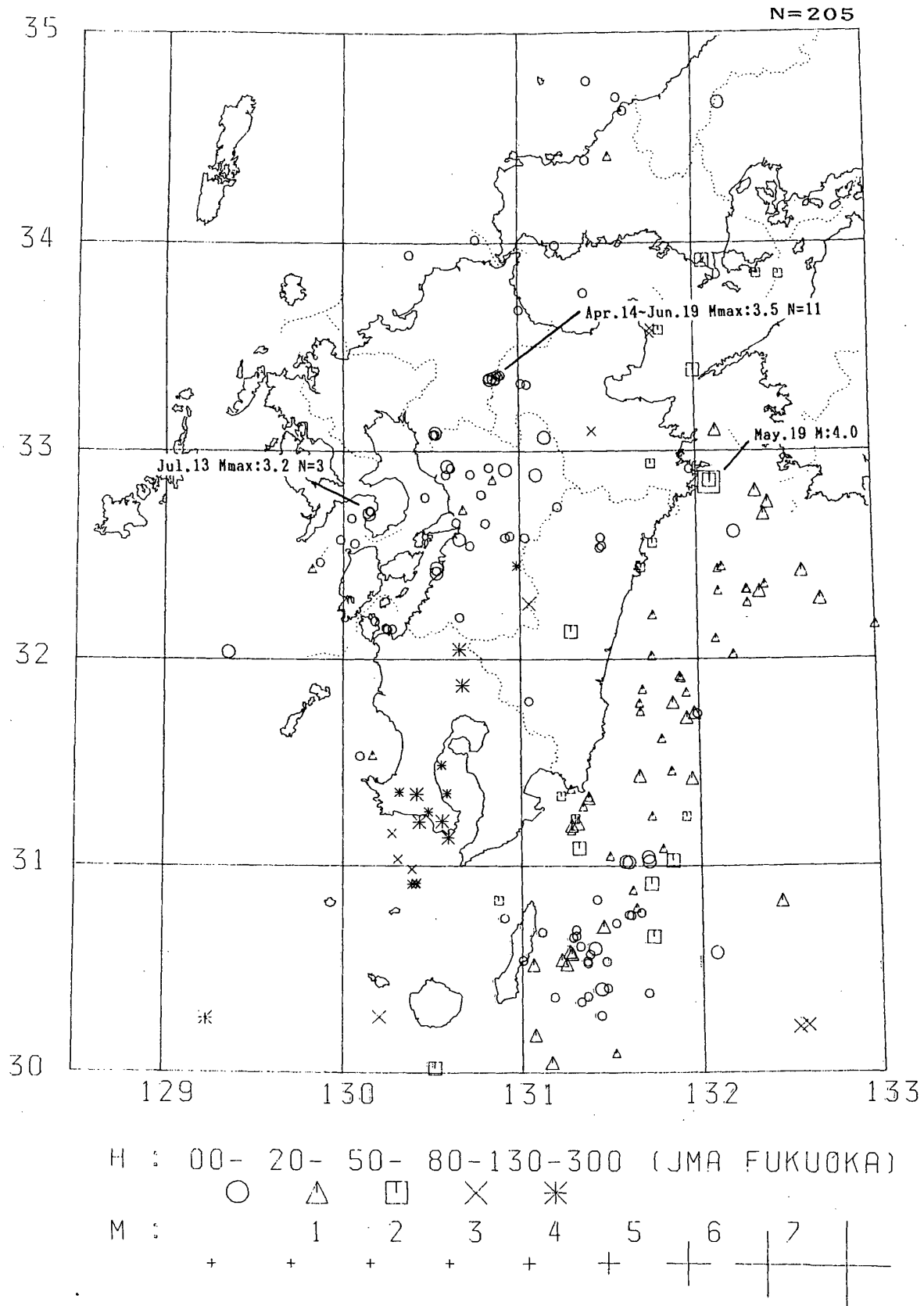
五島列島は、九州の中では最も有感地震が少ない場所で、福江で有感となったのは、1986年4月6日20時01分の五島列島近海の地震(M:4.4)以来、およそ3年半ぶりであった。

注：上記のうち、()に*印付記は特に目をひいた活動。

参 考 文 献

- 1) 福岡管区气象台：九州地方とその周辺の最近の地震活動(1986年2月～4月)，連絡会報，36(1986)，322-326.

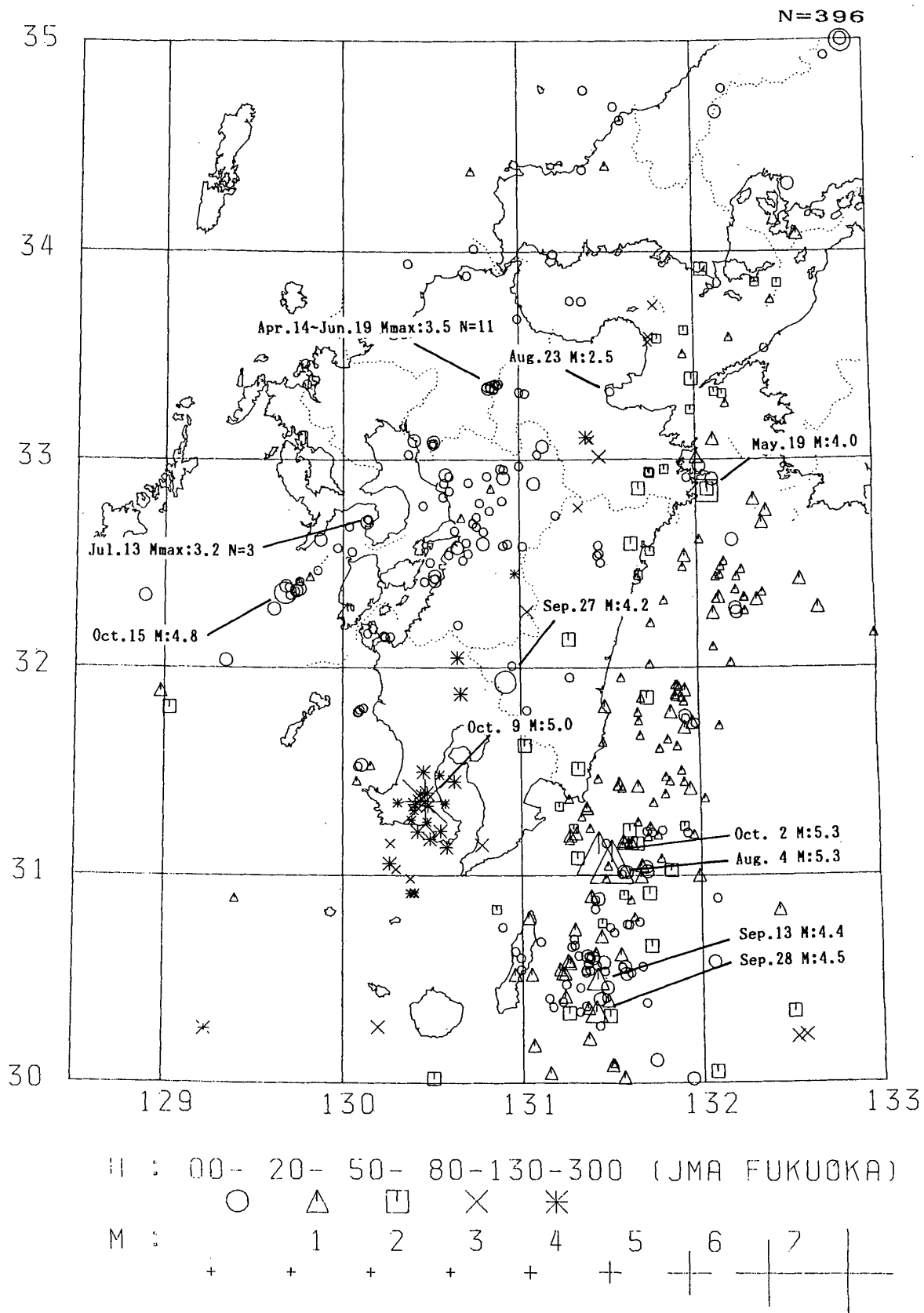
1989 5 1 --- 1989 7 31



第2図 震央分布 (1989年5月~7月)

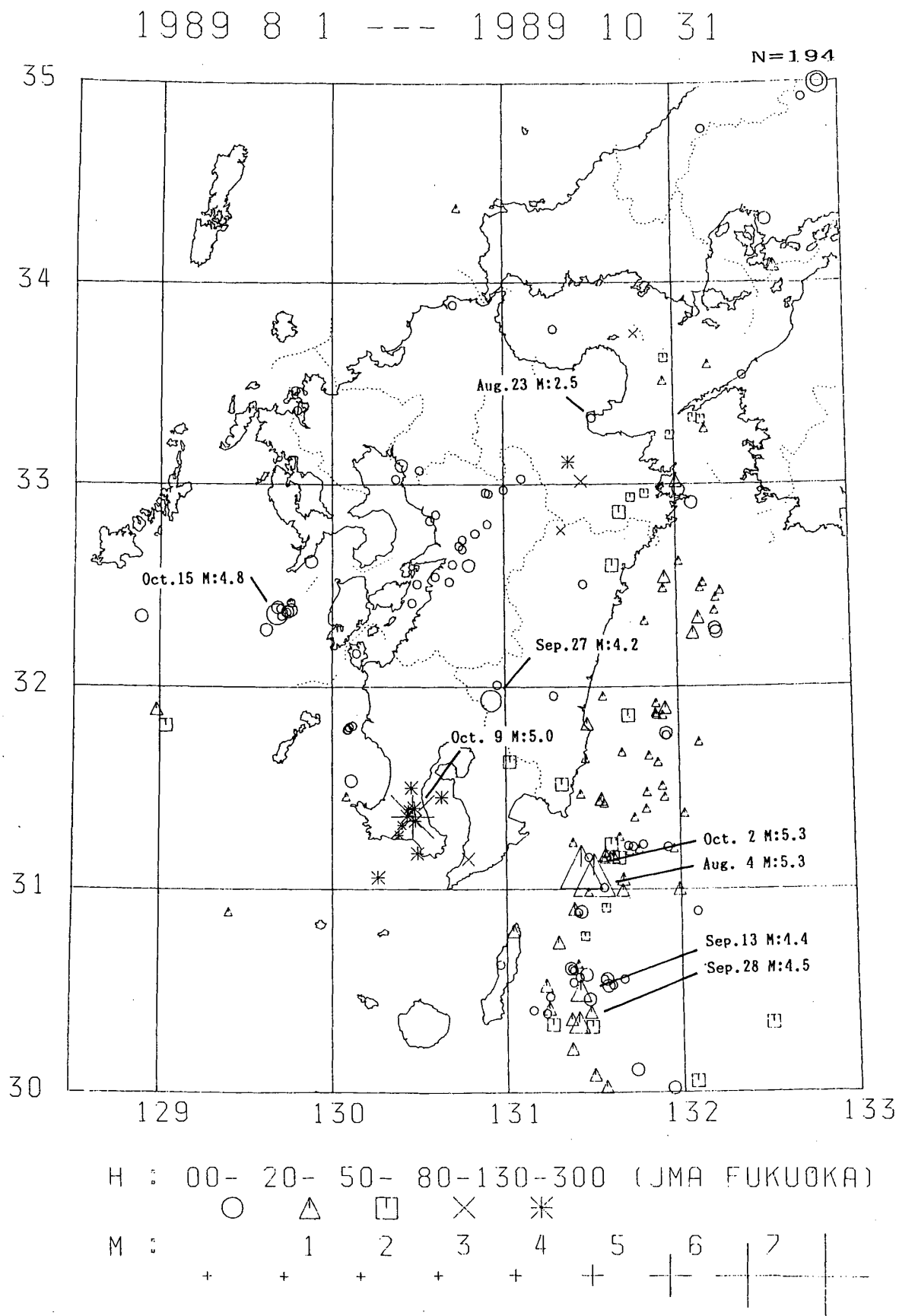
Fig. 2 Epicentral distribution (May - July, 1989).

1989 5 1 --- 1989 10 31



第1図 震央分布 (1989年5月~10月)

Fig. 1 Epicentral distribution (May - October, 1989).



第3図 震央分布 (1989年8月~10月)

Fig. 3 Epicentral distribution (August - October, 1989).